

パラスポーツ体験 in金沢

活動報告書

最終更新 2026/6/14

WPA公認 第37回日本パラ陸上競技選手権大会

第31回日本ID陸上競技選手権大会

パラスポーツ体験 in 金沢

日時 2026年6月13日(土) 15:00~17:00(予定)

場所 石川県西部緑地公園陸上競技場

参加費: 無料



ブレードランニングクリニック

走るための義足、ブレードを使って楽しく走る練習を行います。スポーツ義足の扱いに慣れている義肢装具士もいますので、日常用の義足からスポーツ義足への現場でも付け替えも安心してお任せください。ブレードを持っていない方には無償でレンタルを用意いたします。

当日のスポーツ義足は無償でお貸しします



講師

春田純 (Xiborg) ロンドンパラリンピック日本代表

対象

軽い運動に健康上問題のない方
義足使用者 (どなたでも見学は可能です。)



フレームランナー体験会

「フレームランナーとは、ペダルのない足踏ぎの三輪車で、主に脳性麻痺や歩行が困難な方のために開発されたものです。2028年ロサンゼルスパラリンピックでの正式種目採用が決定し、現在はパラスポーツとして世界中で、さらには国内でもその普及が進んでいます。」
この機会にフレームランナーに触れて、乗って風を感じてみませんか。

講師

塚越和巳 (日本フレームランニング連盟会長)

対象

軽い運動に健康上問題のない方。
脳性麻痺や脳外傷などの脳原性の障害がある方。
筋肉のこわばり、不随意運動などの運動障害があり、自分の足だけでは走ることが難しい方。

参加方法

QRコードよりそれぞれ競技別に事前登録をお願いします。
申し込み期限: 6月10日正午
天候などの状況により、中止となる場合があります。ご了承ください

ブレードランニング
クリニックはこちら



フレームランナー
体験はこちら



協賛



主催・運営 日本パラ陸上競技連盟・アスリート委員会・株式会社Xiborg・日本フレームランニング連盟
協力 株式会社金沢義肢製作所・株式会社テレウス・Pacific Cycles Japan

基本情報

催事名: パラスポーツ体験会in金沢

開催日時: 2026年6月13日(土) 15:00~17:00

会場: 石川県西部緑地公園補助陸上競技場(雨天の場合、雨天走路棟)

石川県金沢市袋畠町南136

参加費: 無料

定員: 10名(抽選制)

申込締切: 2026年6月10日(水)

主催: 日本パラ陸上競技連盟

共催: アスリート委員会・フレームランニング連盟・株式会社Xiborg

会場



スケジュール

- 14:30 準備開始
- 15:00 受付・ブレードフィッティング
- 15:30 オープニング(イントロ、スタッフ、各講師紹介)
- 16:00 アスリートとの交流(リレーなどができれば)
- 16:15 写真撮影、クロージング
- 16:30 終了・片付け
- 17:00 完全撤収

講師

ブレードランニング

山本 篤

1982年、静岡県出身。高校2年の時にバイク事故で左太ももを切断した。2008年北京から2021年東京まで4大会連続で夏のパラリンピックに出場し、走り幅跳びで銀2個、400メートルリレーで銅1個のメダルを獲得。2018年冬の平昌大会にはスノーボード代表として出場した。



フレームランニング

塚越和巳

フレームランニング連盟会長

参加者

交流会参加アスリート

稲垣克明(T63, 住友電装株式会社)

池田樹生(T64, Hakuhood DY ONE、アスリート委員会)

齊藤暖太(T63, 順天堂大学)
井谷俊介(T64, SMBC)
坂本渉(T72, DREAMAT、アスリート委員会)
石井勝(T72, U.S.C with-W)
鎌倉幹(T72, U.S.C with-W)

義肢装具士

山岸舜、竹石健太、楫谷和史(金沢義肢)
谷川大輔(田村義肢)

メディア

なし

イベント報告

スポーツ義足当事者2名と体験用スポーツ義足12名、フレームランニング体験当事者4名名(肢体不自由者、切断のお子様含む)知的障害2名 健常者(10名程度)が参加しました。14:30からサブトラックに移動し、参加者の受付やスポーツ義足の付け替え、フレームランナーの調整の後、15:00ごろからXiborg遠藤、フレームランニング連盟塚越に続き、山田昇記念財団、日本パラ陸連普及委員、石川県障害者スポーツ協会、株式会社テレウス、そして講師山本篤氏からの挨拶をいただき、体験会を開始しました。



ブレードランニングクリニックには、8歳の下腿義足ユーザの小学生男子と40代大腿義足ユーザの男性が山本篤講師の指導のもと、走るためのドリルを体験しました。2人とも自分でスポーツ義足を所有し、日常的に走っているとのことで、さらに速く走るための本格的な練習が行われました。途中から斉藤暖太選手が今後のクリニックに講師としても参加したいということから練習に合流し一緒に汗を流しました。



フレームランニング体験には。電動車椅子を日常的に使用されている方や最近股離断手術を受けた子に加え、アスリートたちやその場にいらっしゃった方々も体験されていました。サブトラックの目立つ場所で午後の遅い時間での開催ということもあり、競技を終えた関係者もいらっしゃり、フレームランナーを体験されていました。



日中の日差しが強く、長時間の運動が体力的に難しいという判断から、16:00ごろからフレームランニング体験会とブレードランニングクリニック参加者を2つのチームにわけ、リレーを行いました。義足ランナーとフレームランナーの混合でのリレー種目は、正式種目ではありませんが、別々の体験会の参加者全員一緒に行うことができ、多いに盛り上がりました。



クロージングには、アスリートたち（稲垣克明、池田樹生、斉藤暖太、井谷俊介、坂本渉、石井勝、鎌倉幹）が自己紹介と自身の競技の案内や報告を行い、最後に写真撮影を行いました。終了後は、アスリートたちが参加者や見学者たちと交流し、障害やスポーツだけでなく、日常や福祉機器に関する話など話題は多岐に渡りました。

